TADOKU JUNIOR　せかいのなぜなに神話　★★★☆☆ ふつう　559語

The Story of the First Mocking-bird

はじめてのマネシツグミのおはなし

Florence Holbrook（1902年の本）　**原文そのまま**　朗読：Matea Bracic

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？　森のおくのずるがしこい男は、赤ちゃんや女の人の声をまねして、かりゅうどたちをテントにさそいこみます。あやしいと思ったわかいせんしは……。



Far away in the forest there once lived the most cruel man on all the earth. He did not like the Indians, and he said to himself, "Some day I will be ruler of them all." Then he thought, "There are many brave warriors among the Indians, and I must first put them to death."

He was cunning as well as cruel, and he soon found a way to kill the warriors. He built some wigwams and made fires before them as if people lived in each one.

One day a hunter on his way home heard a baby crying in one of the wigwams. He went in, but he never came out again. Another day a hunter heard a child laughing. He went in, but he never came out again. So it was day after day. One hunter heard a woman talking, and went to see who it was; another heard a man

calling to people in the other wigwams, and went to see who they were; and no one who once went into a wigwam ever came out.

One young brave had heard the voices, but he feared there was magic about them, and so he had never gone into the wigwams; but when he saw that his friends did not come back, he went to the wigwams and called, "Where are all the people that I have heard talk and laugh?"

"Talk and laugh," said the cunning man mockingly.

"Where are they? Do you know?" cried the brave, and the cunning man called, "Do you know?" and laughed.

"Whose voices have I heard?"

"Have I heard?" mocked the cunning man.

"I heard a baby cry."

"Cry," said the cunning man.

"Who is with you?"

"You."

Then the young brave was angry. He ran into the first wigwam, and there he found the man who had cried like a baby and talked in a voice like a woman's and made all the other sounds. The brave caught him by the leg and threw him down upon the earth.

"It was you who cried and talked and laughed," he said. "I heard your voice and now you are going to be punished for killing our braves. Where is my brother, and where are our friends?"

"How do I know?" cried the man. "Ask the sun or the moon or the fire if you will, but do not ask me;" and all the time he was trying to pull the young brave into the flames.

"I will ask the fire," said the brave. "Fire, you are a good friend to us Indians. What has this cruel man done with our warriors?"

The fire had no voice, so it could not answer, but it sprang as far away from the hunter as it could, and there where the flames had been he saw two stone arrowheads.

"I know who owned the two arrowheads," said the brave. "You have thrown my friends into your fire. Now I will do to you what you have done to them."

He threw the cunning man into the fire. His head burst into two pieces, and from between them a bird flew forth. Its voice was loud and clear, but it had no song of its own. It could only mock the songs of other birds, and that is why it is called the mocking-bird.

むかし、森のずっとおくに、世界でいちばんひどい男がすんでいました。男はインディアンたちがきらいで、「いつか、あいつらみんなの王さまになってやる」とひとりごとを言いました。それから男は考えました。「インディアンの中にはゆうかんなせんしがたくさんいる。まずあいつらをころさなければ。」

男はひどいだけでなくずるがしこかったので、まもなくせんしたちをころすやり方を思いつきました。男はテントをいくつかたてて、それぞれに人がすんでいるかのように、テントの前で火をたきました。

ある日、家へ帰るとちゅうのかりゅうどが、テントの1つから赤ちゃんのなき声がするのを聞きました。かりゅうどは中へ入っていきましたが、二度と出てきませんでした。またある日、べつのかりゅうどが、子どものわらい声を聞きました。かりゅうどは中へ入っていきましたが、二度と出てきませんでした。そんなことが毎日毎日つづきました。あるかりゅうどは女の人の話し声を聞いて、だれなのか見に行きました。またあるかりゅうどは、男の人がほかのテントの人によびかける声を聞いて、だれなのか見に行きました。そして、一度テントに入った人は、だれひとり出てきませんでした。

ひとりのわかいせんしも声を聞いていましたが、何かまほうがかかっているのではないかと思って、テントには一度も入りませんでした。でも、友だちが帰ってこないのを見て、テントのところへ行ってよびかけました。「話したりわらったりしていた人たちは、みんなどこにいるんだ？」

「話したりわらったり」と、ずるがしこい男はからかうように言いました。

「みんなどこにいる？知っているのか？」とせんしがさけぶと、ずるがしこい男は「知っているのか？」とよびかけて、わらいました。

「わたしが聞いたのは、だれの声だ？」

「聞いたのは？」とずるがしこい男はまねしました。

「赤ちゃんがなくのを聞いたぞ。」

「なくのを」とずるがしこい男は言いました。

「だれがいっしょにいるんだ？」

「おまえ」

わかいせんしはおこりました。せんしがいちばんはじめのテントにかけこむと、そこには、赤ちゃんのようになき、女の人のような声で話し、ほかのいろいろな声も出していた男がいました。せんしは男の足をつかんで、地面になげたおしました。

「ないたり話したりわらったりしていたのは、おまえだったんだな」とせんしは言いました。「おまえの声を聞いたぞ。わたしたちのせんしたちをころしたばつを、これからうけてもらう。わたしの兄さんはどこだ？友だちはどこだ？」

「知るものか」と男はさけびました。「お日さまか、お月さまか、火にでもききな。わしにきくな。」そう言いながら男は、わかいせんしをほのおの中へひきずりこもうとしていました。

「火にきいてみよう」とせんしは言いました。「火よ、おまえはわたしたちインディアンのよい友だちだ。このひどい男は、わたしたちのせんしをどうしたのだ？」

火には声がないので答えることはできませんでしたが、かりゅうどからできるだけ遠くへとびのきました。すると、ほのおがあったところに、石の矢じりが2つあるのが見えました。

「この2つの矢じりがだれのものか、わたしは知っている」とせんしは言いました。「おまえはわたしの友だちを火の中になげこんだのだな。さあ、おまえが友だちにしたのと同じことを、おまえにしてやる。」

せんしは、ずるがしこい男を火の中へなげこみました。男の頭がぱかっと2つにわれ、そのあいだから1羽の鳥がとび出しました。その鳥の声は大きくすんでいましたが、自分の歌はもっていませんでした。ほかの鳥の歌をまねすることしかできないので、マネシツグミ（まねをする鳥）とよばれているのです。

たんご と クイズ はじめてのマネシツグミのおはなし

forest 森	**wigwams** （先住民の）テント	**hunter** かりゅうど
baby 赤ちゃん	**fire** 火	**arrowheads** 矢じり
bird 鳥	**mocking-bird** マネシツグミ	

Q1 **ずるがしこい男は、どうやってかりゅうどをテントにさそいこんだ？**

① おいしいにおいをさせた　② いろいろな人の声をまねした　③ 歌をうたった

Q2 **わかいせんしが、はじめテントに入らなかったのはどうして？**

① まほうがかかっていると思ったから　② 足がいたかったから　③ 雨がふっていたから

Q3 **男の頭からとび出した鳥は、どんな鳥？**

① 歌のじょうずなコマドリ　② なかない鳥　③ ほかの鳥の歌をまねする鳥

こたえ

Q1 ② 男は赤ちゃんのなき声や女の人の話し声など、いろいろな声をまねして、かりゅうどをテントに入らせたのです。

Q2 ① わかいせんしは、声に何かまほうがかかっているのではないかと思って、テントに入らなかったのです。

Q3 ③ その鳥は自分の歌をもたず、ほかの鳥の歌をまねすることしかできません。それでマネシツグミとよばれます。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #22420（Florence Holbrook、1902年）。パブリックドメイン。

挿絵：この本には挿絵がないため、場面をイメージして AI（Codex）で描いた絵です。

朗読（Web版）：Matea Bracic（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）

和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは 3 重チェック。人の目でも順次確認しています。